



2026

# 学校だより **本荘** *Smile*

令和7年度 第57号  
令和8年3月24日  
熊本市立本荘小学校  
校長 西川 英臣

## 飛べ、ロケット!!本荘のこどもたちの夢をのせて。



小説やドラマ「下町ロケット」のモデルの一人とされる、植松努さんという方がおられます。北海道でロケット開発を行う植松さんが全国で展開している「ロケット教室」には、実はいじめをなくすための大切な願いが込められています。

植松さんは、いじめの根源は「自信の喪失」にあると考えています。まわりの大人から「どうせ無理だ」「お前なんかにはできるわけがない」と否定され続けると、人は自分の可能性を諦め、自信を失ってしまいます。すると、その苦しさから逃れるために、自分より下の人を作って攻撃（いじめ）することで、心のバランスを保とうとしてしまうというのです。

このような負の連鎖を断ち切るために、植松さんとその志に賛同する方々が「ロケット教室」を開いています。そこでは「どーせ無理」をなくしていくことを学んでいきます。あきらめるのではなく「だったらこうしてみたら?」と考える習慣を身につけます。また、「失敗」を恐れないことも重視されます。制作過程での失敗は、ただの「データ」に過ぎません。試行錯誤を繰り返して打ち上げに成功する体験が、「自分にもできる」という確かな自信（自己肯定感）を育むのです。（裏面に続きま

す)

さらに「他者の夢を否定しない」ことも学んでいきます。自分の夢を持ち、それを応援される経験をする中で、他人の夢や違いを尊重できる心へとつながります。

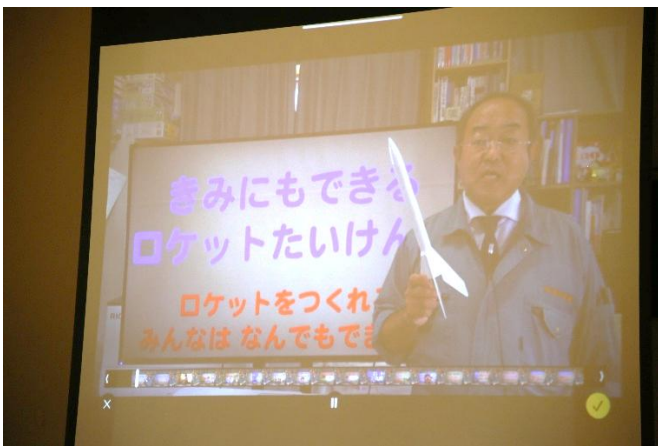
植松さんは「思うは招く（思えばかなう）」とおっしゃいます。こどもが自分を信じ、お互いを支え合える学校を目指しているのは本荘小学校も同じです。このロケット教室の精神を、本校の教育活動にも大切に取り入れていきたいと考えています。

当日は晴天でロケット日和でした。最初に、大人の手を借りずに、こどもたちはロケット制作に熱中していました。頼りは設計図だけです。でも、お互いに教え合い、聞き合いながら、一人一人のα7号ができあがっていきました。

次には打上げです。ドキドキのドキドキですね。しかも、苦衷でパラシュートが開いて落ちてくるロケットをキャッチしないといけないとのこと、「こどもたちも大変だなあ」なんて思っていると、「最初は校長先生と教頭先生です」というご指名！！緊張しながらも二人ともナイスキャッチをすることができました。

写真にアップしていますが、ロケットを見上げるこどもたちの表情が実によいのです。ロケットにはこどもたちの夢も希望もつまっているのでしょう。とても素晴らしいイベントでした。

「とべ！ロケット！！こどもたちと本荘小の夢をのせて！」（校長）



植松さんからのメッセージ



みんなで力を合わせて制作中



ロケット発射！時速200km



舞い上がったロケットを追いかけるみんな